

第2章

都市構造の現況・課題

第2章 都市構造の現況・課題

本市の都市構造に関する現況を整理し、下記のとおり主な「強み」・「弱み」の視点からまちづくりの課題について分析します。なお、詳細な内容については、「資料編 P2～43」に掲載しています。

2-1 本市の現況・将来見通し

(1) 本市の主な強み・弱み

《項目》	《強み》	《弱み》
人 口 【資料編】 p2～p7	○人口の転入超過が継続 ○駅周辺を中心に将来にわたり高い人口密度を維持 ○人口減少が予測されるものの急激な変化はなくゆるやかに進行する見込み ○公共交通サービスや生活利便施設の立地を下支えする一定の人口集積	○ゆるやかな人口減少が見込まれるなか、人口密度の低下が顕著なエリアの存在 ○住宅団地をはじめとする少子高齢化のさらなる進展
土地利用 【資料編】 p8～p10	○良好な住宅団地が形成 ○住宅を中心に歴史や文化・教育等の地域資源が調和した土地利用が形成	○昭和40年代頃を中心に整備された住宅団地等の老朽化と、少子高齢化を背景として今後空き家の増加が懸念される
都市交通 【資料編】 p11～p17	○鉄道の利便性が高く福岡都市圏へのアクセス性が高い ○路線バス及び市のコミュニティバスの運行により市街化区域のほぼ全域をカバー	○利便性の高い基幹的公共交通がカバーできていない箇所が存在 ○自家用車に対する依存度が高いため、路線の減少・廃止による公共交通サービスの低下が懸念される
経済活動 【資料編】 p18～p20	○福岡都市圏の住宅都市として今もお発展を続ける ○太宰府天満宮や九州国立博物館をはじめ、史跡地等の観光資源が豊富なことから、日本有数の観光地であり、卸売業・小売業が多い	○本社機能を持つ大中企業や付加価値を生み出す産業が少ない ○史跡地などの非課税対象の土地・家屋が多い ○高齢者向けの医療・福祉サービスの需要拡大
財 政 【資料編】 p21～p25	○財政状況における実質収支額について黒字確保を継続 ○市債残高の減少 ○ふるさと納税の推進による寄附金の増加	
地 価 【資料編】 p26	○商業地及び住宅地価公示価格が増加傾向を維持することによる固定資産税の増加	—
災害 【資料編】 p27～p31	○災害種別に応じた避難場所が市内各所に設置	○河川沿いには浸水想定区域、山間部には土砂災害特別警戒区域等が指定
都市機能 【資料編】 p32～p41	○商業機能や医療機能、文化・交流機能等の立地が充実	○市外の高次都市機能への依存 ○山間部等において徒歩利用による利便性が低い箇所が存在
都市施設 【資料編】 p42～p43	○九州自動車道及び国道3号、主要地方道等の広域的な幹線道路が充実 ○生活に身近な範囲で都市公園が配置	○幹線道路間を結ぶ道路網 ○観光客による流出入車両、踏切や交差点等により市街地の広い範囲で渋滞が発生